移住の

先輩にききました

The Way to Toyama

山、海、里、まちと、いろいろな表情を持つ富山県。
移住の先輩に、その場所に暮らす理由や
それぞれのよいところを聞いてみました。

Case.1 山暮らし

大崎 豪史さん
久美子さん

住まい　富山市大沢野
仕　事　農業／会社員
2016年、千葉からIターン

四季の移ろいを感じる山で ゆるやかな暮らしを楽しむ

「第一次産業を仕事にしたい」という想いから、
農業をするために富山市へ移住した大崎さん。
移住して３年、奥さんと愛猫と一緒に山間部の一軒家で暮らしています。
今は千葉で暮らしていた時よりも時間に縛られず、健康的な生活ができているそう。
仕事も生活も自然体で楽しむ大崎さんの山暮らしをご紹介します。

大崎さんの移住までの道のり

土遊野の河上めぐみさんと出会う。半年間農業を体験し、生業とすることを決意。 ≫ 千葉に戻り、内定が決まっていた介護の仕事に２年間従事するも、本当は農業をしたい！ ≫ 2016年に再び富山へ。土遊野に就職し、寮で暮らしながら農業の経験を積む。 ≫ 結婚を機に、奥様の久美子さんも大阪から１ターン。一軒家を借りて猫のコタローと３人（？）暮らし！

農業のために飛び込んだ山間部での暮らし

千葉でサラリーマンをしていた大崎さんが農業に惹かれたのは、とあるプレゼン大会でのこと。富山市の里山で、化学農薬を使用しない有機栽培を実践している（有）土遊野（どゆうの）代表・河上めぐみさんとの出会いからでした。「後継者のいない場所で若手が活躍できる第一次産業にちょうど興味を持ち始めた時期に、同世代の河上さんが堂々とプレゼンをしている姿に目を奪われました」。大崎さんはその大会に携わる友人を通じて河上さんと知り合い、縁もゆかりもない富山で農業を学ぶ決意をします。

研修生として土遊野で働き始め、それまで経験したことのない、時間に縛られない仕事や落ち着いた暮らしに感動した大崎さん。当初は１ヶ月半の研修予定を、半年間に延長して滞在しました。「介護職への就職が決まっていたので千葉に帰りましたが、いずれは土遊野に来たいと思っていました」。

千葉で仕事を始めて２年が過ぎたある日、河上さんから「そろそろ富山に来ないか」という連絡が入ります。介護職の資格も考えていたため葛藤もありましたが、大崎さんは再び富山に戻り土遊野に就職。米作りをメインに、養鶏や野菜作りに奮闘する毎日が始まりました。「農業は大変なイメージが強いかもしれませんが、実際は時間に縛られない生活ができる。冬は暗くなる17時頃には仕事を切り上げますし、自然の流れとともに生活を送っています。食べ物の大切さを実感できることも農業の魅力ですね」。

家のDIYで使用する道具箱と、農業に必須の長靴。長靴は毎日使うためすぐボロボロになり、これまで10足以上買い換えた結果「一番長持ちする！」と愛用しているのがこちら。

上・1日に2回行う、約1500羽の鶏の餌やり。
下・大崎さんが世話をしている田んぼ。

地域に溶け込んだ心地よい生活を

大崎さんの移住から約２年後、結婚を機に大阪出身の久美子さんも富山へ１ターン。現在は大阪の会社に所属しながら、在宅勤務をしています。「田舎暮らしに憧れていたこともあり移住に抵抗はありませんでした。静かなので仕事もはかどりますし、夜寝るのが早いので大阪で暮らしていた時よりずっと健康的です」と笑顔で話す久美子さん。

久美子さんが富山に来てしばらくは２人で社員寮に暮らしていましたが、引越し先を探していることを知った地域の方々が声をかけてくれ、家具類も全て揃った一軒家を破格で貸してもらえることに。さらに近所で生まれたばかりの猫も譲り受け、現在は２人と１匹で暮らしています。

大崎さんは職場の方の紹介で、地域の消防団にも所属しています。「消防団に入っていなかったら地域のみなさんと、今のような関係は築けていなかったかもしれません。この地区の消防団には同世代の方もいて、飲み会などの集まりも楽しいです」と大崎さん。昨年には狩猟の資格も取得し、猟友会や青年農業者の会にも所属して活動の場を広げています。地域の中へ自然に溶け込み、楽しみながら暮らす大崎さんご夫妻。お二人の社交的な人柄に、地域のみなさんも元気をもらっているのではないでしょうか。

正直、富山暮らし、どうですか？

ここは GOOD!

出費が少ない！

近所に飲食店やコンビニがないため、無駄な出費が少ないです。飲み会は近所のお家でやるので、交際費がぐっと減りました。都会では毎日通っていたコンビニにも、今では行くのが面倒に感じます。

ここは BAD...

春の大風が強すぎる！

山に住んでいるので、周りに遮るものがなく風が強いです。特に４月に吹く強い風はビニールハウスが飛ぶこともあり、復旧に大変苦労した思い出も。

県外での経験があってこそ、この場所の豊かさが分かる

氷見市出身の鵜飼さんは、関西や関東に移り住んだあと氷見へＵターン。
しかし、Ｕターンした当初はまた別の場所へ移り住むつもりだったそう。
現在は浜辺から徒歩２分の家で、海のさざ波を聞きながら子育て中。
笑顔が眩しい鵜飼さんの海暮らし、のぞいてみましょう。

鵜飼さんの移住までの道のり

進学を機に関西へ。バイトを掛け持ちするなど好奇心旺盛！

バイト先で出会った人と結婚。転勤で千葉や大阪居住を経験。この間に人生の恋人・ヨガに出会う。

2009年、仮住まいの気持ちで氷見へＵターン。その後氷見に惚れた旦那さんもＩターン。

海辺を庭にしながら、氷見の暮らしを再エンジョイ中！

仮住まいのつもりが、気付いたらＵターンに

高校卒業後、進学を機に関西で暮らし始めた鵜飼さん。アルバイト先で出会った旦那さんとともに、千葉や大阪、奈良などで暮らしました。「さまざまな土地での暮らしを通じて感じたのは、その土地ならではの気質や習慣を理解するまでに、大体Ｉ年はかかるということ。特に関西独特の軽口には泣かされたこともありました（笑）。今となっては愛情があるからこその軽口なんだと分かりますね」。

奈良での暮らしに慣れ、子供を授かったころに旦那さんが上京。それとともに、鵜飼さんは氷見市の実家へＵターンすることを決めました。「正直仮住まいのような気持ちで氷見に戻ったんです。だけど、東京と氷見を行き来していた主人が、氷見の雰囲気や食事に惚れてしまって…」。氷見には鵜飼さんの両親が在住していたため、住まいや子育ての面で頼れることや子供がのびのびと育つ海や山が近くにある環境も影響し、自然に移住へと気持ちが動いていったそう。

現在はヨガのインストラクターとして活躍中。そのヨガとの出会いは大阪でした。「ヨガといっても種類はさまざま。私が出会ったのは呼吸法を中心としたヨガでした。特に過労でストレスもあった主人は、呼吸法でみるみる効果が出て。その時にこれは一生付き合えるもの、人生の恋人と出会えたような気持ちになりました」。Ｕターンしてからもインドで研修をしたり、資格を取ったりと学びを深めています。

愛用のヨガマットやマイボトル。ヨガにも取り入れられている伝統医療・アーユルヴェーダのハンドブックも持ち歩いているそう。

初心者の人でも気軽にできる鵜飼さんのヨガや呼吸法、瞑想。
高岡市や氷見市などのイベントスペースで開催中。

一度離れたことで分かる氷見の豊かさ

現在は海のすぐ近くにある実家で暮らしている鵜飼さん一家。小さい頃から海や魚がそばにある環境で育った鵜飼さんにとって、海が遠い関西に住んでいた時は寂しさもあったそう。「両親ともに魚に関係する仕事をしていたし、おじいちゃんは毎日市場に出かけていました。網にくじらが引っかかった日には見に行ったり。幼い頃から海がそばにある環境が当たり前で、自然と気持ちを切り替えたりリセットしたりする場所になっていました」。今もちょっとした時間に子どもと散歩したり、砂浜で相撲をとったりして過ごす氷見の海。日の沈む夕方はマジックアワーといわれ、空に広がる美しいピンク色と青い海の共演は小さい頃から大好きな風景だといいます。

「氷見を一度離れたことで、氷見の豊かさ、あたたかさを知れました」と鵜飼さん。氷見の移住者が吹かせている新しい風にも注目しています。「地域おこし協力隊や、若い移住者の方が地元の人たちと一緒に氷見を盛り上げてくれています。PR下手の人が多いといわれる富山県民の人たちに交じって、新しい拠点やイベントを作り、発信している姿は私たちも学ぶことがたくさん。誰かが何かやってみたい、こうしたいと声をあげた時に力になってくれる人が多いです」。氷見市内の発展を嬉しそうに話す鵜飼さん。愛する家族と人生の恋人とともに、やさしい笑顔で氷見の活躍を見守っています。

正直、富山暮らし、どうですか？

ここは GOOD!

ご飯がおいしい！

富山は食材が豊かで、新鮮です。調理がシンプルでも家ではおいしい食事が作れるし、一見普通の大衆食堂も食べてみるとびっくりするくらい美味しい！氷見はご飯屋さんが多いのも嬉しいですね。

ここは BAD...

ちょっとした買い物も車が必要

最近は八百屋や商店が減り、大型スーパーばかり。車がないと買い物は不便です。年を重ねた時の買い物を考えると心配ですが、最近は移動販売スーパーもあり、それを利用するのかも？と未来を想像しています。

自然の豊かな土地を求めて 2017 年、大阪から南砺市に I ターンした勝田さん一家。里山で、充実した新生活を送っています。

Case.3

里暮らし

勝田 大樹さん
美保さん
樹くん

住まい　南砺市城端
仕　事　農業
大阪から2017年にIターン

地域に根付いた暮らし方を、楽しみながら覚えていく

2017 年の冬、大阪から南砺市城端地区に移り住んだ大樹さんと美保さん。結婚して子育てするなら地方へ移住したいと考え、移住体験ツアーに参加しました。南砺市五箇山を訪れ、大阪の賑やかな街中での生活との違いに驚いたそう。「ここなら自然の中でのびのび子育てできそうだと感じました。帰り道には、南砺市に移住しようと二人の意見が一致しました」。

その後、大樹さんは工場に、美保さんは五箇山の豆腐店に就職を決め、ツアーの半年後にスピード移住。同時に入籍しました。しばらくはアパートで生活していましたが、一軒家に住むことを考えていた時に、カフェで出会った南砺市のぶどう農家さんから空き家を紹介してもらえることに。

「家を見学した時は大雪で、玄関前だけ除雪されている光景はまさに小さな『雪の大谷』でした（笑）」と美保さん。住み始めた頃は、屋根裏に住んでいたハクビシンの足音に驚いたそう。「その時はお隣の猟師さんが捕獲してくれました。猪やハクビシンが多く地元の方も困っているので、私たちも狩猟の資格を取りました。地域に貢献できたら嬉しいです」。

大樹さんは現在、ぶどう農家さんの元で農業を学び始めたばかり。「地元の農家さんがかっこよくて憧れます。いずれは家族でぶどうや干し柿を作っていきたいです」。 移住して I 年足らずですが、その間に樹くんも誕生し、勝田さん家族はすっかり地域に溶け込んでいます。

地元の猟師さんからいただいた熊の毛皮。爪も綺麗に残っていて、ものすごい迫力！

勝田さんの移住までの道のり

NPO 法人グリーンツーリズムとやま主催の移住体験ツアーで五箇山を訪ね、南砺市への移住を決意。 ≫ 仕事と住まいを決めて、駅近くのアパートで新生活スタート。引っ越しと同時に結婚。 ≫ 地元の方に紹介してもらった空き家を見学に行くと、なぜか近所の人が５～６人同行。 ≫ 美保さんは出産を機に豆腐店を退職。大樹さんはぶどう農家に就職。将来は家族で農業をしたい！

正直、富山暮らし、どうですか？

狩猟免許の試験、結果出たか？

ここは GOOD!

子どもが泣いても近所迷惑にならない

隣の家と距離があるので、夜中に子どもが泣いても近所に気を遣うことはありません。大阪の実家はマンションなので、近所迷惑にならないか心配になります。

ここは BAD...

家の中でも圏外!?

今住んでいる場所は携帯の電波が届きません。今は Wi-Fi を導入したので快適ですが、住み始めた頃は大変でした。街から離れた場所に住む時は、電波があるかどうかもチェックが必要です！

群馬県出身の市川さんは、入善町の魅力に惹かれ 2018 年に I ターン。移住を決めるまでの約 1 年間に何度も富山を訪ね、暮らしをイメージして移住しました。

Case.4

町暮らし

市川 哲也さん

住まい　入善町
仕　事　会社員（エンジニア）
2018年にIターン

遊びで訪れているうちに、移住へ一歩一歩近づいていた

市川さんが初めて富山に興味を持ったのは 2016 年の秋。富山市の複合施設「TOYAMA キラリ」の建築を見に訪れた際、市内で偶然開催していたイベントで富山大学の学生と意気投合。「その学生が富山の良さを熱く語ってくれて。富山っておもしろいなと思いました」。

その後も、交通手段を変えて何度か富山を訪問。「旅先では観光地だけでなく、人が生活しているところを見たい」という市川さんは早朝に宿の周りを約 2 時間かけて散歩したこともあったそう。県内の様々な場所を訪ねる中で、地元の方とついつい話し込んでしまうことも。「入善の美術館を訪ねた時、学芸員さんに『移住してみたらどうですか？』という言葉をかけてもらいました。その帰り道、入善で菜の花畑越しの立山連峰を見て『帰りたくないなら入善に住んじゃおうかな』と移住へのスイッチが入ってしまいました（笑）」。

当時住んでいた栃木に帰った後、「本当に住めるかどうか判断したい」と考えた市川さんは、入善の移住体験ツアーに参加。そこで住民の方々に背中を押され、所属する企業の北陸事業所へ異動願いを出し、2018 年に移住しました。現在は入善に住まいを持ちながら、滑川市の会社に通勤。休日はバイクで県内を走ったり、行きつけのカフェで読書を楽しんでいる市川さん。「富山に来てからは、教育機関の公開講座や、公共施設などで開催されるワークショップにも参加しています。充実した毎日をかみしめながら過ごしていますよ」。

市川さんのお気に入りの本。雨や雪が多い富山では本を読むことが増えたそう。

市川さんの移住までの道のり

TOYAMA キラリの建築に興味を持ち、富山を訪問。富山に惹かれ始める。 ≫ 何度か富山を訪れ、その度に地元の人と意気投合。移住を考えはじめる。 ≫ 「いいところしか見えていないのでは？」と感じ、いくつかの移住体験ツアーに参加。 ≫ 会社の担当者に、移住を検討していることを相談。派遣先を富山にしてもらえることに！

正直、富山暮らし、どうですか？

移住へのスイッチが入るきっかけになった一枚。

ここは GOOD!

お惣菜のおいしさと安さにびっくり！

スーパーのお惣菜が新鮮で美味しい、そしてお手頃価格で手に入ります。なんと多くのスーパーでコロッケが 20 円！一人暮らしや、共働きで忙しい方にも良さそうですよね。

ここは BAD...

冬は洗濯物が乾きにくい

「弁当忘れても傘忘れるな」と言われるほど、雨の日が多い富山。コインランドリーやサンルーム付きの物件もよく見かけます。今では晴天続きの故郷・北関東の空よりも思慮深いような富山の空の方が好きですね。

移住者Before & After

その後、どうですか？

移住当初から、暮らしぶりや
仕事のスタイルを変化させて、
新たな目標に向かって挑戦している
先輩方を訪ねました。

千葉県→南砺市五箇山

現在

多賀野（たがの） 公太（こうた）さん
伽菜子（かなこ）さん
夢だったゲストハウスをオープン

3年前

憧れの山暮らしをスタート

山暮らしの知恵、受け継がれてきた日常を継承する基地（ベース）にしたい

2015年3月、山間の豪雪地域・五箇山での暮らしに憧れ移住した多賀野さんご夫妻。「都会からよう分からん奴がやってきた！」と近所の人から警戒（？）されたのも始めのうちだけ。地域のお祭りに参加したり住まい探しを手伝ってもらう中で徐々に打ち解けていき、野菜のお裾分けをいただいたり風習を教わったりとすっかり仲良しに。元民宿の空き家を自宅として譲り受けたことで、地域と観光客を繋ぐゲストハウスを開きたいという夫婦の夢ができました。

→

約1年の準備期間を経て、2018年1月「山暮らしのゲストハウス タカズーリ喜多（きた）」をオープン。自宅兼ゲストハウスとして大規模な改装工事を行うなど、地域の人の全面協力がなければ開業できなかったと公太さんは語ります。「地元の大工さんに自分たちの希望を伝えてたくさん話し合いました。壁などに使う木材に毎日一緒に柿渋を塗ったり、トラブル発生でいろいろな方々に助けていただいたり。開業準備は大変でしたが、信頼関係がぐんと深まりました」。

オープン後は国内外から観光客が訪れています。夜、カフェスペースに明かりが灯っていると近所の人が遊びにきて、宿泊客とお酒を飲み交わしながら民謡ライブ…なんてことも。「この地域全体を“宿”だと思って楽しんでもらいたい」と語る多賀野さんご夫妻。「地域に根付いた山暮らしの知恵、歴史がとにかく面白くて貴重なんです。お茶しながらおばあちゃんの話を聴いたり、山の草木で籠を作ったり…今の時代に合う形で伝統文化を継承していく“基地（ベース）”にしていきたいです！」

1. 近所の人から教わった籠編み　2. 玄関は山で拾ったものや手作りの品、譲り受けたもので飾られている。公太さんの狩猟道具も　3. 伽菜子さんの郷土料理の腕は右肩上がり　4. カフェや夜のバー営業では宿泊客との会話も楽しい。ライブやイベントを開催することも

石川県→射水市→南砺市井波

現在

竹内（たけうち） 真理子（まりこ）さん
フェアトレード専門店をオープン

スパイスやチョコレートなどのフェアトレード商品のほか、オーガニックの雑貨や食品も並ぶ

3年前

Uターンして4年間は、富山県定住コンシェルジュとして移住希望者をアテンド

移住者との交流経験も生かして新しい一歩を踏み出しました

射水市出身の竹内さんは2012年にUターン。富山県定住コンシェルジュなどを経て、南砺市井波にフェアトレード専門店「metio（メティーオ）」をオープンしました。「金沢に住んでいた時にフェアトレードに出会いました。ものを作るストーリーの深さに衝撃を受けて、石川県のお店で経験を積み、自分でお店を持つためにUターンしました」。定住コンシェルジュ時代から、拠点を持たずマルシェなどのイベントに出店。経験とともに人のつながりも増えていきます。

「井波は全国でも有名な木彫のまちで、職人の作業する光景が間近にあります。フェアトレード製品も手作りのものが多いので、同じ手仕事の文化が日常に根付いている点にも親しみを感じましたね」。

2017年に店舗をオープンした後も、前職で得た経験は生かされています。「移住者の視点には、自分が気づかない富山がたくさん。ヒントをもらいながら、今後は県内産の上質な農産物や加工品にも力を入れていきたいです」。

フェアトレードって？ *fair trade*
直訳で「公平・公正な貿易」。立場の弱い開発途上国の製品を適正な価格で購入し、生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易のしくみです。

東京都→立山町→富山市

“富山のふるさと”を心に新たな架け橋へ

「移住の先輩」として取材を受けた2016年3月は、地域おこし協力隊として、立山町の定住コンシェルジュを務めていた高橋さん。その後協力隊の任期を終え、現在はNPO法人「グリーンツーリズムとやま」で都市部と農山漁村の交流促進に携わっています。「協力隊の期間を終えたあと、東京に戻ることも少し考えました。でも気づいたら富山に残ることを決めていました」。現在の職場は協力隊の時に一緒に仕事をする機会があり、仕事を探した時に偶然求人を出していたそう。タイミングに恵まれていたと振り返ります。

現在は富山市在住。中山間地域を盛り上げたいと思うきっかけになった立山町の方たちとは今でもつながりがあります。「住民と役場の架け橋をしていた立山町での経験が、農業に興味のある方と中山間地域をつなげる今の仕事にとても役立っています。今でもあたたかく迎えてくれる立山町は、私にとって富山のふるさとです」。

現在

高橋（たかはし） 秀子（ひでこ）さん
NPO法人で、都市部と農山漁村の交流に関わる

「パソコン仕事も増えました。ディープな田舎暮らしを体験する『帰農塾』は調整こそ大変ですが、やりがいはとても高いです」と高橋さん

3年前
地域おこし協力隊として立山町の定住コンシェルジュを担当